



2020年6月9日

新型コロナウイルス禍においても、日本株運用への投資姿勢、変化なし

～海外アクティブ運用投資家12社への調査結果～

ジェイ・ユーラス・アイアール(株)(東京 千代田)では、先ごろ、中長期運用かつアクティブ運用投資家である英国7社、米国2社、イタリア、スイス、シンガポール各1社の合計12社へ、新型コロナウイルス禍における日本株投資へのスタンスの変化を聞き取りもしくはアンケート形式で調査したところ、以下の結果となった。

質問1. COVID-19 のパンデミックを経て、日本株への投資スタンスに変化はあったか？

- ・変化があった:0社
- ・変化はない:11社
- ・無回答:1社

このパンデミックを経て、日本株へのスタンスに変化があったと回答した投資家はゼロであった一方、日本株へのスタンスに変化がない、と回答した投資家は12社中11社であった。「日本企業は COVID-19 のパンデミックをうまく切り抜けている。また、強固なバランスシートを保持し、株主還元を維持するためにできることに取り組んでいる日本企業が多い」、「残念ながら今は顧客においては日本株への関心は薄いようだが、当社は引き続き、バランスシートが健全なバリュー株の発掘に注力する」というコメントも寄せられている。

なお、無回答であった1社は、「日本株だけをカバーしているのではなく、グローバル株の一部として日本株をカバーする体制に変わったため、コメントを控える」とのことであった。

質問2. コロナ禍が今後も継続する場合、日本企業との直接ミーティングの代わりに、電話会議やウェブ会議といった代替手段を望むか。また、その場合、どのような手段を望むか。

- ・代替手段を望む:11社
- ・代替手段は望まない:1社

どのような手段か(複数回答)

- Zoom:7社
- WebEX:4社
- Teams:3社
- Skype:3社
- 電話会議:4社

欧米の投資家自体、自宅勤務であるため、メールや携帯での連絡をうけることも違和感はなく、やはり、企業との直接コミュニケーションを望んでいるようだ。

具体的には、パンデミックの状況が継続し、海外出張による直接ミーティングの実施が難しい場合、何らかの代替手段で最新の状況についてディスカッションをしたいと希望していることも分かった。欧州の投資家からは、「日本への出張が難しい間は、投資先企業の欧州拠点を訪問させてもらえるとよいのだが」というリクエストがあり、また、「海外投資家とのコミュニケーションを継続しようという日本企業のあらゆる努力をありがたく思う」との応援のコメントもあった。中には「このところ多くの日本企業と電話会議を設定しているが、なかなか便利だということが実感した」という投資家の声も聞こえた。

新型コロナウイルス禍において、日本企業のファンダメンタルズへの懸念はなく、今回の結果から、むしろこのような時こそ長期的視点での経営についての説明が IR 活動を通して聞きたいということであり、IR 活動を積極的に展開することが一層期待されていると言えよう。

以上

当担当連絡先:岩田・鈴木 03-6273-4032、携帯:090-6021-1230

.....
ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社

日本企業のニーズを満ちし、しかも世界レベルの IR 活動を日本企業に提案・推進する日系初のグローバル IR・ガバナンスのコンサルティング会社。東京のほか、ロンドン、ニューヨークに拠点を置く。日本企業への提案力に関しては多くの実績があり、IR に関する経営陣へのコンサルティングでは、時価総額 1 兆円以上企業をはじめ、新興企業も含めた幅広い顧客を得ている。<https://www.j-urusir.com/> 電話: 03-6273-4032
.....